

北朝鮮経済ウオッチ

今月上旬に金天中大統領の特使として訪朝した林東源・大統領外交安保統一特別補佐役が明らかにした内容のなかで、一つ目を引くものがある。

金正日総書記が提案したという韓半島の東海岸沿いにおける鉄道連結だ。林特使によると、金総書記は現在、復旧工事が進められている半島の西海岸を走る京義線(ソウル・新義州)と並んで、東海岸でも同様に南北を縦断する鉄道および道路を連結することを韓国側に提案してきた。京義線は中国と連結し、東海岸の鉄道はロシアと連結させることを想定、南北縦断鉄道の欧州までの乗り入れを中国経由と極東ロシア経由の二ルートで推進させようという構想だ。

金総書記は昨年夏のロシア訪問の際、南北の鉄道とシベリア鉄道を連結させることでプーチン大統領と合意した。しかし、これまでの南北間の合意は、韓半島の西側を

境界線から高城までの十八キロの計百四十五キロを修復すれば、将来的には釜山から韓半島の東海岸を経て通りロシア極東部を経て欧州につながる鉄道ルートが完成することになる。

ただ京義線ですら工事が中断状態にあるという現状で、果たして東海岸沿いまで手が回るのか、といった指摘もある。京義線は韓国側最北端に新設された都羅山駅までの列車の定期運行が始まるなど、韓国側では順調に復旧作業が進んでいるが、北朝鮮側は中断された工事が再開する兆しはまだみえない。また軌道の幅の違いや北朝鮮国内の鉄道老朽化などで、韓半島縦断鉄道と中国やロシアの鉄道とを連結させるには巨額の資金が必要になる。

しかし今回、金総書記が提案した構想が現実のものとなれば、南北縦断ルートは二つになり、北朝鮮経済を活性化させることは間違いない。しかもこの構想は、もう一つの別の構想とも関係している。それは日本の九州北部と韓国・釜山を結ぶ

東海岸の南北鉄道連結を提案

日韓トンネルとの関係も視野？

金正日総書記

今回の提案に基づいて韓国側が江陵(江原道)と軍事境界線までの百一十七キロ、北朝鮮側が軍事

この二つの構想が現実のものとなれば、日本は韓国、北朝鮮と事実上の陸続きになる。そうなれば東京から釜山やソウルに連結し、中国経由やロシア経由で欧州までつながる一大物流ルートが完成、北朝鮮はその物流の中間地として一挙にその経済的な重要性を増すことになる。

今回の金総書記の提案は、こうした中長期的な展望に基づいたものであることを感じさせる。

(佐貝祐介)